

「インパクト評価・投融資に係るデータ・指標等についての考え方」(概要)

【目指すべき姿】企業がパーパスを起点に事業とその社会的インパクトを一貫したストーリーをもって提示し、それを適切な指標で評価。①経営者や従業員が、自社の企業活動がどのように社会課題の解決に貢献し、同時に企業価値を向上させているかを確認すると共に、②金融機関や投資家が、その評価を踏まえて投融資を行い、③結果として企業価値と社会価値の双方が持続的に向上する好循環

インパクト投融資の共通課題

(1) 社会課題の解決の価値評価は発展途上

企業のインパクト投融資へのアプローチは、①事業の直接的な価値に加えて企業活動が生む潜在的な価値も可視化すること、②社会的インパクトの創出そのものを事業計画に落とし込むことの二つ。②の**企業が解決する社会課題の価値から、企業の生み出す社会的価値を定量・定性評価する枠組み**は発展途上。

(2) インパクト指標の整理・必要なデータ整備

日本において重要性の高い社会課題（人手不足、少子高齢化、自然災害等）に応じたデータや指標の整備、国際指標との整合が課題。

(3) 社内の合意形成不足

経営層から現場までインパクト評価の意義・目的の**共有・理解**のプロセスが必要。

(4) 対話相手となる投資家の関心に応じた情報開示

政府への提言

(1) 日本の課題に応じた指標の設定

- 日本として解決すべき優先課題・分野におけるインパクト指標を**国家像や政策目標から逆算した指標**の設定
- 政府内での施策の一貫性、企業が創意工夫できる「自由演技」の余地、設定した指標が国際的にも認められるようにすることが重要。

(2) データの整備

- **政府保有データの可視化・オープン化**、データ活用の利便性向上のためのガイドライン作成などは重要。使用頻度が高いオープンデータは、**データの更新頻度の基準**を政府やコンソーシアムで定めることを期待。

(3) 政府のメッセージ発信

- インパクト投融資を官民連携で進めることの継続的発信が重要。ベストプラクティスの収集や表彰等を期待。

産業界の取組み

(1) 社内の合意形成

- 指標の設計やデータ収集の前に、**価値創造ストーリーについて社内で合意形成**することが必要。

(2) 中長期的視点によるインパクト評価

- **中長期での事例の積み上げ**が必要。
- **「中間KPI」を充実させ**、それを活用しながら、インパクトの最終目標に向けた可視化も一案。

(3) インパクト評価・情報開示の戦略的活用

- インパクト開示は**戦略的な投資家対応ツール**。投資家との対話を通じ、必要とされるインパクト指標を特定。

(4) ベストプラクティスの収集と共有

- **ベストプラクティスと課題の共有**が有効。